

---

# 庄内砂丘と海岸林

## —クロマツ林の歴史と自然—

---

会 期 平成 21 年 6 月 20 日 (土) ~ 7 月 26 日 (日)

解説会 6 月 20 日、21 日 関連講座 7 月 4 日

### 開催にあたって

庄内砂丘は、山形県飽海郡遊佐町吹浦字西浜から酒田市を経て鶴岡市湯野浜に至る、長さ約 34 km、面積約 55 km<sup>2</sup>の砂丘として知られています。砂丘は現在広くクロマツ林に覆われています。これは風と飛砂を防ぐために植えてきた人工林、いわゆる「砂防林」です。植林は 1700 年代から、多くの人びとによって取り組まれてきました。

この展示をとおして、「庄内砂丘と海岸林」の歴史には、先人たちのたゆみない努力と大変な苦労があったことを知っていただければ幸いです。ここでは多くの絵図や記念碑、写真などをもとに紹介いたします。

開催にあたり、ご協力を賜りました関係各位に厚く感謝申し上げます。

山形県立博物館長 佐藤 広明

## おもな展示資料と植林者

### 砂丘のつくり

砂丘のできかた  
庄内砂丘のつくり  
クロスナ層が見られる砂丘断面 (写真)

### 荒れた砂丘

酒田袖之浦小屋之浜之図 (写)  
大泉叢誌 附図録絵図 二十四 酒田山王日  
和山眺望之図

### 曾根原六蔵関係

曾根原六蔵植林之図  
西濱山風砂被害之状況  
六蔵翁植付指示之図  
曾根原家名子十四名松植付之図  
藩主酒井公より被下置たる絵図面裏書  
菅野村六蔵植付所間 改絵図  
海岸砂防植栽事業及成績  
海岸砂防植栽事業及記録集

曾根原家は碓屋という屋号を持ち、酒田中

町に住み造り酒屋を営み代々六蔵を名乗っていた。父は佐藤藤蔵の妹を妻とし、その長男として生まれたのが、六蔵保業である。1776年（安永5年）妻がなくなり、1778年（安永7年）母がなくなった。これらの出来事が六蔵を植林という社会奉仕的な事業に進ませるきっかけとなった。

1780年（安永9年）藤崎村の北から吹浦まで約3.5kmの植林の願いが受け入れられ、六蔵が移り住むことになる。14戸の農民を招致して植林を進める。1802年（享和2年）ようやくここに菅野村という名前がつけられ、この時藩より苗字帯刀を認められた。

六蔵は1810年（文化7年）10月に68歳でなくなった。植え付けた本数は190万9240本という。その後、子孫六代にわたって植林を続け現在のクロマツ林ができあがった。

## 佐藤四郎兵衛関係

四郎右衛門植林之図

遊佐郷宮野内組藤崎村御林並びに人々前地  
続植付絵図面

藤崎村いしぶみ（原本）

藤崎村いしぶみ

官有地を民有地に御引直し之儀につき願  
い 佐藤藤蔵・曾根原安蔵と藤崎村境絵図と熟  
知裏書

遊佐郷藤崎村植付場絵図面

藤崎村無税地絵図面

1741年（寛保元年）ころ、飽海郡西浜山の飛砂の害はとくに烈しかった。郡代服部外右衛門はこれを憂い、農民を土着させて砂防植付のほかに道はないものと考えた。種々かくさくし現在の藤崎の西山に飛砂簀垣を設置し、佐藤四郎兵衛（平田村北俣）、佐藤安右衛門（平田村飛鳥）らの希望者を募って、1746年（延享3年）から西浜植林をはじめた。

佐藤四郎兵衛は、植林の才に長けた人物であり、その肝煎となり植え付けの先導者とな

ってこの地区の砂防林をつくった。晩年、四郎兵衛は平田村にもどったが、2男の四郎右衛門が藤崎であとを継ぎ、子孫は代々植林を主導した。

佐藤藤蔵は上藤崎から南を預かり地として植林を行ったのに対して、佐藤四郎兵衛、佐藤安右衛門、来生八十郎らは中・下藤崎の荘内藩直営の植林地に入り、藩の保護のもとに植林をおこなった。おなじ藤崎村でも、藤蔵と四郎兵衛などでは植林のきっかけや運営が異なっている。

## 佐藤藤蔵関係

藤蔵佐藤君碑

被下置地裏絵図面

藤崎附近砂丘地図

佐藤藤蔵御預地絵図

佐藤藤蔵植林之図

阿弥陀尊 佐藤藤蔵守護佛

「松に雀」 佐藤藤蔵筆

「象潟絵図」 佐藤藤蔵筆

陣笠

ほら貝

出羽国飽海郡遊佐郷西浜植付始藤蔵重好記  
録

佐藤藤蔵は、酒田で酒造業を営んでいた父藤左衛門とともに、植林をおこなった。

1745年（延享2年）藤左衛門は日向川以北（旧河川）の長さ約4.3km、幅は海岸までの土地を預かり地として藩に申請し、植林を願い出た。藩主は直ちに植林を認める許可を与えた。

1746年（延享3年）藤蔵は移り住み、植林の経営にあたった。1752年（宝暦2年）藤左衛門は永眠した。1755年（宝暦5年）一家をあげて藤崎村に移り住んだ。藤蔵は常に家人に戒めて、

「一枝を折らば自の一指を斬れ、一本を伐らば一手を断て。又止むを得ず一樹を用材とせ

ば三十倍を代植せよ。」と言い聞かせた。

藤蔵が造林に身をささげて約 50 年、一帯は青松が白砂に映えて連立し、美田は遠く開け秋には金色の波をなびかせるようになった。1797 年（寛政 9 年）9 月 22 日ついに亡くなる。その子孫もまた代々植林に尽力した。

## 本間光丘関係

正五位本間四郎三郎光丘翁肖像画（写）  
宝暦八年寅年以降 接待寺建立関係書類（写）  
西浜砂防林植付並び接待寺建立願書（写）  
文化十三年子三月酒田西浜谷地新絵図之写  
酒田風景図 本間家本邸  
酒田風景図 日和山眺望  
酒田風景図 妙法寺鐘  
本間光丘翁砂防林経営記念  
松林碑拓本  
贈正五位本間四郎三郎光丘翁事暦  
本間光丘翁 編著者安倍季雄  
庄内平野の開発者本間光丘 五十公野清一著  
救荒の父本間光丘翁 堀川豊永著  
光ヶ丘松林沿革概要

1732 年（享保 17 年）～1801 年（享和元年）。本間家二代光寿の 3 男として生まれる。幼名久治、友治郎、のちに久四郎と改め、1771 年（明和 8 年）ころ藩の士分になってから四郎三郎光丘と改称した。

19 歳から 22 歳まで播州姫路の豪商奈良屋権兵衛（馬場了可）について、商売と学問を身につけて帰り、三代を継いで家業をあげ、本間家中興の祖といわれる。

当時、酒田地方は季節風の風砂の害になやまされていた。これを救済するため、1758 年（宝暦 8 年）光丘 27 歳のとき西浜砂防林の植林を始め、私費を投じ 4 年目でようやく成功をみた。以来本間家はこれを継続事業として植林をつづけ、今日の砂防林の礎を築いた。

1816 年（文化 13 年）町の有志が日枝神社境内の高台に松林銘碑を建て偉業を伝えている。1918 年（大正 7 年）正五位を贈られ、1924 年（大正 13 年）には光丘神社として祀られた。

## 宮田角右衛門関係

酒田今町より吹浦村渋ヶ森まで砂山絵図  
国有林払下請願書

## 尾形庄蔵関係

慶長年中ヨリ 尾形家由緒  
西山払下げ願（控）

## 佐藤太郎右衛門関係

植付絵図

## その他

下川村 文政九年砂山絵図  
庄内浜写生図

## 営林署による植林

秋田、山形の海岸砂地造林  
秋田営林局管内の海岸砂地造林  
海岸砂地造林事業概要  
海岸治山事業概要  
海岸防災林造成功程表

近年にいたるまで植林と荒廃が繰り返された。とくに第二次世界大戦時には大きく荒廃した。戦後の復興とともに植林が再開され、現在の姿の原形がつくられたのは 1965 年（昭和 40 年）過ぎである。海岸近くの前線はほとんどが 1950 年（昭和 25 年）からの国営海岸砂地造林事業によってつくられた。

戦前から海岸砂防林造成の研究と実践を行っていた富樫兼治郎は、1950 年（昭和 25 年）



酒田営林署長に就任し、日本初の国営庄内海岸砂防林造成事業に取り組んだ。海岸に系統的に人口砂丘をつくり、飛砂を防止し、後方の砂丘地が草に覆われて安定してからクロマツを植林するという方法をとった。従来の造成事業に大改革を加えた方法である。山形県、秋田県の砂丘地植林に偉大な業績を残し「海岸砂防の父」といわれている。1966年（昭和41年）にその功績をたたえ、酒田市住吉町に顕彰碑が建てられた。

砂防林、砂草および砂丘の保護や植栽は現在も行われている。部分的に壊れた砂丘には夏に防砂垣を立て、クロマツや砂草の植栽は2、3月ころの作業となっている。また、作業用の道路がつくられ、肥料の散布もおこなわれている。

## 庄内海岸の図

庄内海岸打払絵図  
大泉海岸之図 橘景遠  
酒田ヨリ吹浦迄海岸図  
大泉海岸湯野浜ヨリ観音崎迄  
大泉海岸下浜之図  
出羽庄内酒田風景 橋本貞秀  
酒田県大小区別村々絵図  
庄内二郡村々絵図

## 砂とのたたかい

砂箱（砂もっこ）  
作業着  
かが帽子  
しとぼんどり

## おもな写真

明治41年庄内浜風景  
大正13年光丘神社遷座祭  
浜中西山堀割（赤川）工事  
浜中海岸より鳥海山遠望

家屋の堀出し  
浸食工事の完成 浜中海岸  
「はこもっこ」で砂を運ぶ  
営林署の植林記録写真

## 書籍とパンフレット

庄内砂丘砂防林史  
庄内海岸砂防沿革誌  
十里塚村誌  
坂野辺新田の発達 長岡政太郎著  
海岸砂丘の変貌 立石友男著  
砂防林物語 須藤儀門著  
砂防林植付人列伝 須藤儀門著  
西浜山植林の祖佐藤藤蔵重好家家庭行事暦  
佐藤忠夫著  
宮田角右衛門家家譜—七代角右衛門と学而館— 小山松勝一郎  
みんなで考えよう、庄内砂丘のクロマツ林  
庄内海岸の国有林  
わたしたちの庄内海岸林物語  
庄内を守る砂丘林  
万里の松原人

## 展示協力

この企画展の開催に当たり、下記の個人、博物館、学校、機関等から御協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

五十嵐和一、小田公平、工藤泰治、酒井忠久、佐藤清人、佐藤久良、佐藤秀彰、曾根原東、高山勘之助、本間万紀子、三沢英一、宮田ゆき子、財団法人本間美術館、財団法人致道博物館、酒田共同火力発電株式会社、酒田市立資料館、酒田市立光丘文庫、酒田市立浜中公民館、東北公益文科大学、鶴岡市立郷土資料館、浜中民具資料館、本間家旧本邸、山形県庄内総合支庁森林整備課、遊佐町、遊佐町立図書館、遊佐町立西遊佐小学校、林野庁東北森林管理局庄内森林管理署